

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 燈影学園 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☒ その他（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒607-8025  
京都府京都市山科区四ノ宮柳山町 29  
E-mail toueigakuen@ittoen.ed.jp  
Website http://www.ittoen.ed.jp/  
幼児児童生徒数 男子 71 名 女子 37 名 合計 108 名  
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～18 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自然に適う教育」を学校理念としながら、ESD として①国際理解に係わる活動、②平和に係わる学習、③人権にかかわる学習、環境にかかわる活動を実践教育で学習している。

#### ① 国際理解に係わる活動

イスラエルとパレスチナが紛争している中で、双方の子どもたちが平和を願いながら同じ教室で一緒に学習している学校がある。この学校の子どもたちに向けて支援活動として慈善団体が行っている「ハンド・イン・ハンド」のプログラムのために当校の小学生が JR 山科駅前で街頭募金を行った。対象の慈善団体からは感謝状が届き、引き続き対象の学校とは学童が描いた絵画の交換を検討している。

## ② 平和に係わる学習

平成 29 年 6 月 15～16 日、小学 6 年生が広島の実爆ドームを見学し、むつみ園では戦争について被ばくされた方からお話を聞いて平和の意味と大切さを学習した。広島での学習をその後校内向けに学習報告会を行い学んだ知識をアウトプットした。また、広島での平和学習に向けて小学生全員が折り鶴を作り、千羽鶴を持って行った。

## ③ 人権に係わる学習

平成 29 年 6 月 21 日～23 日、中学生はハンセン病施設である岡山県の長島愛生園を訪問して人権学習を行った。差別と偏見の中で暮らしてこられた元患者の方から直接お話を聞いた。他にも歴史館見学、園内見学を通してハンセン病とそれにまつわる歴史を学び、人権意識を高める。学習したことを校内向けにプレゼンテーション形式で報告会を行った。

## ④ 環境に係わる学習

平成 30 年 1 月 10 日～12 日、高校生は滋賀県長浜市でトイレ掃除を行った。また 11 月 25 日には大阪府内の四天王寺をはじめ西成区内の各所の奉仕清掃活動を行った。本校では「後始末」を一つの教育のテーマに掲げている。まずは自分の身の回りの後始末を一人一人がすることで環境を整えていくことができると考えている。



① の写真



② の写真



③ の写真



④ の写真

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ハンド・イン・ハンドの資料(イスラエル・パレスチナ共学施設)

<https://www.handinhandk12.org/>

[http://www.ittoen.or.jp/business\\_voluntary\\_activity/result/](http://www.ittoen.or.jp/business_voluntary_activity/result/)

広島平和記念資料館

<http://hpmuseum.jp/>

国立療養所長島愛生園

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/)

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

小学生の街頭募金は年に1度行うが、事前に総合的な学習の時間を用いてイスラエル・パレスチナ間について簡単に学び募金の意味を知る。

広島平和学習についても事前に総合的な学習の時間などを用いて学習する。

中学生も週に一回の授業を用いて事前にハンセン病に関して学習する。

環境問題については本校独自科目「生活」(道徳および本校の歴史を学ぶ時間)を通して創始者の考えや教育の理念を学び環境に対する意識を高める。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

それぞれの行事を継続的に取り組めるように各行事後に校内向け報告会を行うことにより次世代の児童生徒が目標をもって取り組めるようにする。また各行事は教育課程に組み込まれておりそれぞれの教員間で共有している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動を適宜学園誌に報告し、また年に一度保護者対象にアンケートを取り評価を得ている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

各行事の校内対象の報告会を開き各校種児童生徒が発表を聞く。またその場に教員も同席しお互いに学びを深める。外部への発信としては京都のユネスコスクールに認定されている6高等学校で編成するASPnet 京都のESD交流会にて各校の学びを発表し合い、またワークショップなどに取り組んでいる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコスクール・ネットワークの活動には京都外国語大学(ASPUnivNet)からの支援を受けている。また京都ユネスコ協会とも連携して様々な活動をしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在は提携校はないが模索中である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

どの側面を切り取っても体験をもって学習するということを一番大事にしている。机上の学習の上に実践学習、体験学習をし、それを明文化、そして発表することによって理解を深める。

もう一つ大きな点は教員が同じ立場に立ち、共に学ぶということである。トップダウン的な教授法ではなくともに学習し、ともに肌身で感じて成長を共にすることに大きな重きを置いている。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1. ハンドインハンド活動を継続して行う
2. 広島平和学習を継続して行う。
3. 岡山県の愛生園での人権学習を引き続き行う。
4. 長浜でのトイレ掃除活動を継続して行う。
5. 大阪府内の清掃奉仕活動を行う。
6. 海外のユネスコスクールとの交流を模索する。